

新城能楽社略年表

資料：大原紋三郎氏文献ほか

和 暦 (西暦)	2011 満	年	事 項	起 源
天正 4 (1576) 天正14 (1586)	435		奥平信昌公による新城城落成祝能 (九世観世与三郎演能)	新城の能
慶長 8 (1603)	408		新城村の土産神、牛頭天王社創建 (明治以降は富永神社) (1688、貞享5以降、三ヶ日摩耶寺・八幡社の奉納中止) (1695元禄 8 以降、三ヶ日大福寺奉納中止)	神社創建
宝永 5 (1708)	303		2月9日～22日 喜多流二世左京直能の弟子服部三左右衛門正信親	新城喜多流
享保 3 (1718)	293		子 (伊勢菰野出身、三ヶ日に寓居) が勸進能 服部三左右衛門71歳没	
元文元 (1736)	275		新城城主菅沼家三代目の定用の家督相続を祝い、牛頭天王宮 (現富永神社) にて祭礼能奉納。能舞台は掛け小屋式の屋根もない簡単なもの。敷板のみ？。以降、毎年、社前で能を奉納。	祭礼能奉納
元文 2 (1737)			小面始め 7 面？を家臣6名の現金・現品寄進で購入。町外から龍台、黒頭寄進。町寄進 (現金35名) により狩衣、大口、水衣、唐織、素襖、縫箔、絹、熨斗目、法被、半切など購入。能面13面はじめ購入。寄進とあわせ早くから22面所有	
元文 3 (1738)			能面13面はじめ購入。寄進とあわせ早くから22面所有	
宝暦 8 (1758)	253		服部源右衛門友清91歳没	
天明 2 (1782)			(1768明和5年、三ヶ日大福寺大火により服部邸も焼失) 大飢饉 (天明2～7) により前後12年間奉納を休止。	
寛政 5 (1793) 寛政12 (1800)	218		奉納の再開。組立式による解体保存可能な舞台。	組立能舞台
享和 2 (1802)	209		8月 牛頭天王社 (富永神社) の境内に能舞台新築。	能舞台建設
文政 9 (1826)	185		9月 富永神社能舞台再建。途中改修を経て現在の能舞台。	現存能舞台
元治元 (1864)			この頃より維新(1868)前後の奉納が時々休止。	
明治13 (1880)	131		本町能楽社の基礎が定まり、毎年奉納の完全復興。	能楽社の基礎
明治14 明治21 (1888)			(青山能舞台建設(明治11年)に伴い岩倉具視が能楽社を設立)	
大正15 (1926)			能舞台を後方へ約三間移転し見所を拡張。楽屋・鏡の間などの大改修。	
昭和 7 (1932)			本町能楽社中の有志で囃子会をつくってシテ方、ワキ方もこれ以降、祭礼能の囃子に出演。	
昭和 8 (1933)			金剛流宗家金剛巖来訪。能装束の鑑定及び重要品の箱書き。	
昭和 9 (1934)	77		新城町本町能楽保存振興会会則施行。(現在なし)	
昭和10 (1935)			祭礼能維持のため千鳥連 (祭礼青年) 全員参加。一人一役以上勤める。	
昭和12 (1937)			支那事変 (太平洋戦争) のため 8 年間奉納休止。	
昭和21 (1946) 昭和22 (1947)	65 64		戦争中休んでいた奉納の復活。 新城観世謡曲同好会設立？	
昭和27 (1952) 昭和29 (1954)	59 57		新城狂言同好会 (和泉流) の設立により狂言方再編 新城富宝会 (宝生流) 設立？	
昭和33 (1958)	53		能舞台屋根瓦葺き替え・羽目板修理 「祭礼能」の市指定無形文化財。「能装束、能面」の市指定文化財 (工芸品)、「能舞台」の市指定文化財 (建物)	能楽殿修理 市指定文化財
昭和35 (1960)	51		新城能楽協会設立 (能楽社、観世謡会、富宝会、狂言会)	能楽協会

新城能楽社略年表

資料：大原紋三郎氏文献ほか

和 暦 (西暦)	2011 満 年	事 項	起 源
昭和45 (1970)		人間国宝による富永神社特別奉納	
昭和49 (1974)	37	舞台正面破風・庇の大修理。舞台・橋掛かりへの照明工事後、本町の所有権を神社に引き移した。以降能狂言以外でも使用。	能楽殿修理
昭和50 (1975)		城北保育園建設により楽屋取り壊し。園舎と楽屋を共用の取決。	
昭和58 (1983)	28	「新城本町能楽社中」を「新城能楽社中」に改名（能組、通帳）	
平成 2 (1990)	21	8月 新城市文化協会が市民薪能として第1回新城薪能を企画・開催（地域文化広場・はなの木広場）。 11月 薪能を契機に新城能楽同好会（新城明生会の前身）発足による能教室の開催。 台風により能舞台の各所に痛み	市民薪能
平成 4 (1992)	19	国立能楽堂による能装束調査及び特別展示出品：11月4～29日（能装束）・12月2～20日（狂言装束）	
平成 5 (1993)	18	平成4年5月20日～5年2月28日、舞台大改修・本舞台床、屋根葺き替え、橋掛かり板壁、鏡の間柱・屋根等の補修、舞台裏廻り廊下・倉庫・白州の新設。工事費2,868万1,916円（市補助1,000万円）	能楽殿修理
平成12 (2000)	11	11月22日 文化協会主催の新城薪能に文化庁長官感謝状授与	
平成14 (2002)		11月6日～15年2月2日 文化庁からの依頼で海外展「能装束展」（アメリカ合衆国サンセレス・カンティ美術館へ装束出展（貸出H14/9/15?～3/15）。紺地入子菱に獅子文様厚板ほか狂言4点。冊子あり	
平成15 (2003)	8	9月～16年3月 文化庁委嘱事業・伝統文化こども教室開講	
平成16 (2004)		2/11～3/14 新城の能面展（新城設楽原歴史資料館）	
平成19 (2007)	4	8月～20年2月 文化庁委嘱事業・伝統文化こども教室第2次開講	
平成20 (2008)	3	第19回新城薪能以降、文化協会主催から市主催となる。 6/17～19 県史による能面調査	
平成21 (2009)	2	3月29日、37年ぶりの追善能（大善寺）	
平成22 (2010)	1	5月19日 新城本町能楽振興会設立	

- 資料： 1. 「新城町能楽の葉」(S9.9.15 平田彰著)
 2. 「新城歴史ばなし」(S63.4.1 大原紋三郎著)
 3. 「新城能楽補遺」(H10.5.20 大原紋三郎著)
 4. 「三ヶ日町の能の沿革」（飯塚恵理人）
 5. その他（具体的な演能活動状況は未掲載）
 （演能休止の時期は主なもののみ記載）